

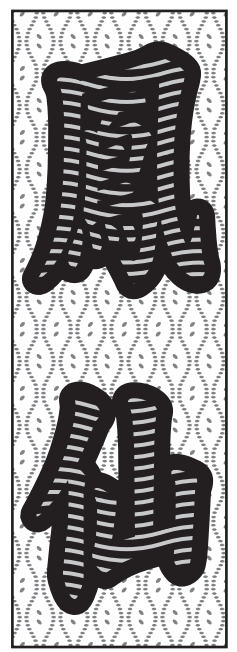
平成24年度 年回表	
一周忌	平成23年 (2011年)
三回忌	平成22年 (2010年)
七回忌	平成18年 (2006年)
十三回忌	平成12年 (2000年)
十七回忌	平成8年 (1996年)
二十三回忌	平成2年 (1990年)
二十七回忌	昭和61年 (1986年)
三十三回忌	昭和55年 (1980年)
五十回忌	昭和38年 (1963年)
百回忌	大正2年 (1913年)

日曜・祝日の御法事お申込みはお早めをお願いします。

新年を迎えて「辰年」



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 当山も檀信徒皆様のご慈愛を賜り、新年を迎えることが出来ました。衷心より感謝申し上げます。また、この度の東日本大震災により被災された皆様ならびにそのご家族の皆様様に心より
 お見舞い申し上げます。



発行
 桐生山鳳仙寺
 桐生市梅田町一丁目五八
 電話〇七五三三一一一七七
 FAX〇七五三三〇一六〇〇〇

今年、辰年。昭和3年の辰年にお生まれになった曹洞宗管長で大本山總持寺の貫首である江川辰三禅師様が良くおっしゃられている言葉を紹介します。
 「我逢人」(がほうじん)で我、人と逢うなり」という言葉です。
 曹洞宗の開祖・道元禅師が中国の天童寺で如浄禅師様に出逢った時「まのあたり先師をみる。これ人にあうなり」という言葉に表したそうです。人と人との出逢いの尊さを3文字で表した言葉で、「人」「もの」「こころ」あらゆる出逢いと関係が大切であることを表すと

8月5日〜7日の二泊三日の日程で宮城県石巻市内に住む小学生の児童名が鳳仙寺の本堂と常磐殿に宿泊し、桐生での夏休みを楽しんだ。これは震災の影響で夏休み旅行に行けないという石巻市の保護者の声を(公社)桐生青年会議所が聞きつけ、企画したイベントである。そして、今回子供



でも奥深い言葉でありました。昨年、東日本大震災という私たちにとって忘れることが出来ない大きな辛い出来事がありました。近年では、人と人との繋がりは希薄化していると言われてまいりましたが、震災を機に多くの人々が助け合いや絆の大切さを改めて感じさせられた年であり、まさに多くの人々との繋がりがである「我逢人」を体現した年であったと感じます。「我逢人」の気持ちをこれからも大切に過ごしたいと思えます。今年、私たちにとって幸多き年



8月5日から3日間は、桐生八木節祭りの期間中で、子供たちは日中「まゆ玉ころがし大会」や「ジャンボパレード」に参加し、桐生のお祭りやうどんなどの食文化も体験していた。お寺では、各種団体によるレクリエーションや花火大会、BBQ

大野八右衛門
 墓前祭のご案内(予定)
 震災の影響で延期になっていました桐生市主催の市制施行九十周年行事である「大野八右衛門墓前祭」が鳳仙寺で行われることになりました。この行事は「桐生新町町立て祭」の一環で、桐生新町は、徳川家康が関東に入国した翌年の天正19年(1591年)から慶長11年(1606年)にかけて、家康配下の代官・大久保長安の手代・大野八右衛門が町立て(都市計画)し桐生市の礎を

築いたといわれています。その大野八右衛門の墓が鳳仙寺である為、墓前祭が企画されました。当日は、墓前供養や講話があります。また、境内の屋台にて軽食を楽しんで頂きます。お友達やご家族をお誘い合わせのうえ、ぜひご参加下さい。
 ●日時
 平成24年3月22日(木)
 ●会場 鳳仙寺本堂
 ●内容
 11時 屋台村がオープン
 13時 開会 挨拶(森実行委員長、亀山市長)講話
 ※墓地に移動して焼香
 15時 終了予定

第12回「写経の会」のご案内
 第12回写経の会開催のご案内です。鳳仙寺では年2回行っている恒例の行事で、開催日当日の2月15日は、涅槃会(ねはんえ)です。
 涅槃会とはお釈迦様がお亡くなりになった日です。当日は、涅槃会の法要を行った後に、写経を行う予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。
 ■日時 平成24年2月13日(水) 13時より

第12回「写経の会」のご案内
 15日(水) 13時より
 ■人数 30名くらい
 ※鳳仙寺婦人会の皆さんも一緒に参加します。
 ■参加費 1000円
 ■持参品 小筆(または、筆(ペンでも可)・ブチン ※写経用紙(半紙)、手本、簡易硯、墨汁は用意いたします。
 ■スケジュール 13時〜 受付

石巻の子供たちの夏休み
 たちを受け入れる施設として鳳仙寺が協力することになった。
 8月5日から3日間は、桐生八木節祭りの期間中で、子供たちは日中「まゆ玉ころがし大会」や「ジャンボパレード」に参加し、桐生のお祭りやうどんなどの食文化も体験していた。お寺では、各種団体によるレクリエーションや花火大会、BBQ

13時10分、涅槃会法要(お釈迦様の命日)
 13時40分、写経
 15時00分頃 解散
 ※締め切りは2月13日(月)まで
 ※参加ご希望の方は、電話かFAXにてお申し込みください。
 ◆お申し込み、お問い合わせはお寺まで
 電話0277(32)1177
 FAX0277(40)6000

世話人	
東洋一	小此木久四郎 田嶋愛子
天笠勝美	金居成治 中村清
板井政夫	金丸由太郎 館盛治
板倉光夫	金子清谷 啓
岩崎岑生	金子宗吉 都筑啓友
岩崎親道	木島幸雄 長澤吉太郎
内野正章	木島富美雄 長谷川孝元
梅澤守夫	桑子三喜男 羽田野白日子
大里政由	小林當二 廣神重子
大澤淳一	小林満寛 平方佳介
岡村栄三	五味田博 前原美佐保
岡島栄	清水義男 吉田長生
小川廣夫	下山博康 (あいうえお願)

正 賀	
住職	坪井 良廣
副住職	坪井 良樹
総代	石原 竹雄
	太田 亨文
	池田伊佐男
	峯崎 一男
	田島 輝雄

除夜の鐘で今年の厄払い

ご祈禱は、菩提寺で!!

除夜の鐘

十二月三十一日は毎年恒例の「除夜の鐘」を行います。撞き始めは十一時三十分頃を予定。古いお札や縁起物は、境内にてお炊き上げをいたしますので、この機会にご持参ください。

新春祈禱

元日より五日まで毎日新春のご祈禱を行っていただきます。時間は、朝九時、午後四時半頃まで。30分程の間隔で随時申し込みができます。

新盆合同供養

8月16日、本堂に於いて「新盆合同供養」をお勤めいたしました。鳳仙寺では、新盆の方を対象に8月のお盆期間にご自宅にお伺いしてご供養を行っておりますが、本年度より本堂での新盆合同供養も開始いたしました。こちらは、ご自宅が本堂かを選択いただく形になります。

当日は、百名以上の方々に列席をいただき大規模に開催することができました。



規模に開催することができました。

ぜひとご参詣ください。寒いので、暖かい服装でお出かけ下さい。●参道は、暗いので徐行をしながらお車の運転にご協力をお願いします。●新春祈禱元日より五日まで毎日新春のご祈禱を行っていただきます。時間は、朝九時、午後四時半頃まで。30分程の間隔で随時申し込みができます。

災害支援報告



支援物資の配布の様子

【住職】

六月十七・十八日に宮城県南三陸町にて桐生仏教会主催・桐生災害ボランティア協力で「東日本大震災犠牲者百ヶ日忌法要」をお勤めして参りました。また、曹洞宗の各寺院や避難所へ Good Bears of the World (GBW) のティディベアを配布して廻りました。GBWとは本部が米国オハイオ州トレド市にあり、世界各国に支部がある団体で、さまざまな国籍・バックグラウンドを持つ人々が、戦争、天災、事故など不慮の事故に遭遇した方達に心の温もりや安らぎとなるようにティディベアをプレゼントしています。不思議な力を持つティディベアは、欧米にてティディベアプレゼントの長い歴史があります。第2次世界大戦などで命を落とされた方の遺品の中にはティディベアがたくさんあったそうです。今回、桐生仏教会と災害ボランティアの訪問が、GBW機関誌の表紙を飾り世界中に報告されました。

「東日本大震災」発生後、被災地に何度か足を運ばせていただく機会がありました。時が進むにつれて被災地への支援の方法が変わっていくの

平成24年度		厄年表	
前厄	本厄	後厄	
男			
60歳 昭和28年生	61歳 昭和27年生	62歳 昭和26年生	
41歳 昭和47年生	42歳 昭和46年生	43歳 昭和45年生	
24歳 平成元年(昭和64年生)	25歳 昭和63年生	26歳 昭和62年生	
女			
36歳 昭和52年生	37歳 昭和51年生	38歳 昭和50年生	
32歳 昭和56年生	33歳 昭和55年生	34歳 昭和54年生	
18歳 平成7年生	19歳 平成6年生	20歳 平成5年生	

尚、この表は満年齢に一歳を加えた数え年です。

●鳳仙寺ホームページ <http://www.hosenji.or.jp/>

を感じました。主な活動は「災害支援物資の運搬と配布」「サツマイモを育てて被災地の子供達へ届ける活動」「仮設住宅の住民のお話を聞く行茶」です。

第一に三月下旬の災害直後、桐生青年会議所を中心とした地元有志と共に、「災害支援物資の運搬と配布」を宮城県石巻市・女川町・東松島市に行いました。

これは、被災地が必要とされる物資を調べた後に、桐生市・太田市でその支援物資を募って被災地へ運搬し、配布をするという活動です。三月中

旬く四月下旬までの一ヶ月間半の間に、十七回支援物資を運搬し、毎日現地で配布しました。携わった人数は約八十名です。一回支援物資を運んだら現地に三日間滞在し、物資の仕分けや配布、情報収集を行います。支援物資は日が経つにつれて、様々な団体から集まってくるので必要な物は刻々と変わっていきます。一日に運び込まれる物資は、四トントラック四台分なので、かなりの量です。これを品物ごとに分ける作業が一番大変でした。

これは災害直後に始めた活動で、地元の市役所や社会福祉協議会、また多くのボランティアが増えてきましたので、四月下旬で役目を終え活動を終了しました。

次に「サツマイモを育てて被災地の子供達へ届ける活動」桐生仏教会青年部の有志で、六月から十月までの間桐生市内の「花のあい」さんの畑をお借りサツマイモを育てました。育てたサツマ

最後に、「仮設住宅の住民のお話を聞く行茶」は、大本山總持寺にて修行を共にした仲間と行いました。福島県浪江町の住民が原発の影響で避難をしている福島市内の仮設住宅にて開催しました。程度で、自分にできる事を様々な形で伝えたいと思います。私たち一人一人の活動でこの日本がまた復興できますようみんながんばっていきましょう。



GBW機関誌の表紙



鹿妻団地の付近

一番大切だと感じました。これは、三日間くらいの周期で時間と共に刻々と変化していきますので、現地とのやり取りが重要になってきます。例えば震災後2週間は、食料としてカップラーメンが一番必要とされていましたが、3週間目にはカップラーメンが多く集まり過ぎる状況になります。またボランティアをする人々も被災地が必要とされていない事を自分たちの満足の為に行うことはあまり良くないと感じます。

今回の災害支援活動を通して、ボランティアは、相手が必要とする物だけを送る。必要とされている事を必要とされている人にする事が重要であると感じました。また、ボランティアは無理のない程度で、自分にできる事を様々な形で伝えたいと思います。私たち一人一人の活動でこの日本がまた復興できますようみんながんばっていきましょう。

震災後、自分たちに出来ることはなんだろうと仲間と共に考えたことを災害支援活動として行ってきました。「現地で求められる物や事」と「こちらが持つて行く物や行う活動」がズレないように調整することが

【お詫びと訂正】

平成二十三年お盆号の「大本山總持寺の禪師様が変わりました」の記事中にありました江川辰三禪師さまのご自坊は、正眼寺(愛知県小牧市)です。お詫びして訂正いたします。